

明日へ  
復興願う「投げ餅」  
飯館中学校のふるさと学習発表会

巻頭

新春を迎えて一

## 年頭のごあいさつ

特集

わたしたちの避難と てしごとのはなし

報告

12月議会定例会



飯館村長  
菅野 典雄

## 心のシェアを！

村民の皆さん、明けましておめでとうございます。

平成29年がスタートです。平成29年は、平成23年と同じようにこれから先常に語られる年になるのではないのでしょうか。それは、今年3月31日に避難指示解除がされるからです。これまで何十回となく言っている言葉であり、これからもさらに数多く言っていかなければならない言葉ですが、「避難指示解除はゴールではなく、復旧復興・再生のスタートである」ということです。スタートでありますからこれから先、数限りない課題・問題そして難題が待ち受けていることでしょう。たとえいくらあったとしても、いくら難しかったとしても私たちは前に進んでいかなければなりません。先人が汗を流して守ってきた「ふるさと」を「いたて」であります。そして、次世代にとっても「心の支えになるふるさと」でもあります。その間に生きていく私たちがしっかりと守りつないでいく大切な役割を担っているからであります。

この避難指示解除を境にして、村民の皆さんの家族や地域の姿はもちろん、村の姿も大きく変わっていくことが考えられます。そのような時に、大切なことはどんなことなのでしょう。行政として、しっかりと課題に取り組み復興を成し得ていくことは、もちろんのことですが、全てのことには手が届くわけではありません。限界があります。



飯館村議会議長  
大谷 友孝

## 年頭のごあいさつ

新年あけましておめでとうございます。

東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所の事故によって全村避難を余儀なくされて以来、避難先での生活は早くも6年目の春を迎えてしまいました。村民の皆さまには、昨年7月からの長期宿泊をされている一部の方を除いて、今もって狭い仮設住宅や不慣れた土地での借り上げ住宅などで、不自由な避難生活を過ごされ、本当にご苦勞をかけていることに、議会人として誠に申し訳なく思っております。

飯館村は、本年3月末日をもって帰還困難区域を除き、避難指示の解除がされることとなります。

昨年の村内の除染作業状況は、農地除染の地力回復工事を除きほぼ終了との事ですが、村民の皆さんからは、まだまだ徹底した除染にはなっていないのではないかなど、多くの声が寄せられています。

また、昨年11月6日に国から帰還困難区域(長泥行政区)の除染の住民説明会が開催され、長泥行政区の全体除染を認めるのは難しい旨の説明がありました。住民の皆さんからは除染して欲しい等多くの要望がありました。里山エリア等の具体的な除染方法等も示されていますので、国に対し住環境周辺の高線量箇所も含め、徹

そこで村民の皆さんお一人お一人のお力添えが絶対必要になってきます。その時に大きな変化のある時ですから、まずもって気を長くもっていただいたり、さらに柔軟に考えていただくということが大切でありましょう。

そして、もう一つは、「相手の身になって考え、相手を思いやる」ということが大切であろうと思うのです。今、日本のあちこちで「シェア」という言葉が叫ばれています。「カーシェア」「ホームシェア」と。つまり、自動車も家も2人3人で使えば安くあがるという意味です。それはそれで「まてい」の心でありますから大事なことはあります。が、もう一つ「心のシェア」つまり「心を分け合う」ということがあります。喜びも悲しみも苦しみも相手と一緒にあってあげるといことがこの避難指示解除に当たっては、大切ではないかと思えてなりません。何のことはない、村の先人が常に心がけてきたことをもう一度、この避難指示解除に当たり先人にならって私たちの心に宿してみようということなのです。

今年度は、「いたて村の道の駅、まてい館」もオープンしますし、復興住宅も少しずつ建設されていくはず。皆さんにとっては、家屋解体事業も進んでいるようですし、それにもなう新築やリフォームがこちらで見受けられます。さらに昇口舗装もどんどん進んでいます。学校再開に向けた工事も今年の大事業であります。したがって皆さんと一緒に、一つひとつ、この高いハードルを越えていく年にしたいものです。村民の皆さんのご理解とご協力が必要でありますので、何卒よろしくお願いいたします。

村民の皆さんにとって、そして村にとっても大きな大きな節目の年です。皆さんにとって少しでもよい年になりますよう心より念じ、新年のあいさつとさせていただきます。

底した除染を強く求めていく考えであります。

大谷地住宅の建替をはじめ、相馬地方広域消防飯館分署、交流センターふれ愛館等、そして深谷の復興拠点として道の駅整備も予定通り進められ、一歩ずつではあります。が復興への歩みを実感できるようになって参りました。

国が示している避難指示解除の3要件を改めて検証してみますと、①空間線量率で推定された年間積算線量が20ミリシーベルト以下になることが確実であること。このことについてはクリアされていると思えます。②電気、ガス、上下水道、主要交通網、通信等、日常生活に必要なインフラや、医療、介護、郵便などの生活関連サービスが概ね復旧すること、子どもの生活環境を中心とする除染作業が十分に進捗すること。この項目は多くの課題があると思えます。③県・市町村・住民との十分な協議。このことについては概ね理解されていると思われれます。

村議会としては、引き続き村民の健康管理、特に子どもたちの継続した健康管理をはじめ、避難指示解除後の生活支援制度の確立、森林の再生に係る基準設定と弾力的な運用の容認など、村民の皆さんから寄せられた多くの声を集約し、1日でも早く皆さまが安心して安全に暮らせるような、インフラ整備環境づくりに議会一丸となり全力で取り組み、復興施策・支援策を早期に示すよう、国に対し強く要望して参りたいと思えます。

どうか今年も、一層のご指導、ご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、今年が皆さまにとって幸多い年でありませうお祈り申し上げます。

## までいな針仕事で希望をつむいだ日々



代表の佐野ハツノさん  
(前田・八和木)

避難直後の松川第一応急仮設住宅で、お年寄りの生きがいをと始めた「いいたてカーネーションの会」。新聞報道などをきっかけに、全国から寄せられた着物の古着を使い、「まで衣着」の他、半天やバッグ、小物などをつくり続けています。支援者の助言を受けて作品を販売するようになりましたが、「ものを売る」素人にとって、そこからは勉強の連続でした。自分の手仕事がお金の少しでも収入となったとお年寄りたちが喜んでくれた時は、本当にうれしかったです。現在は、他の仮設住宅や借り上げ住宅の人と一緒に、商品づくりに励んでいます。商品は羽田空港の売店に置かれている他、デパートのイベントなどで販売されることもあります。

村に戻っても続けていきたいと夢を描いています。この縫い物が、絆を持って生きる人たちの支えになれば、本当にうれしい。そうやって前を向いて歩いていく姿で、いただいてきた支援に、少しずつでも応えていけたらと思うのです。



いいたてカーネーションの会

着物をリメイクして  
つくる「まで衣着」

振り返ります  
つむぐこと



表情豊かなウサギたち。後ろの飾り棚は、和子さんが設計し、ご主人の憲昭さんが製作したもの

避難の後、平成24年に定年退職をしたのですが、村でしようと思っていたことはできなくなってしまって、さて何をしたらいいんだらうと始めてみたのが、布製の手提げバッグづくりでした。一通り習うと、自分の発想でデッサンしてつくるのが楽しくなり、その後はアンティークの着物地を買ってきて、つるし雛やウサギの人形づくりにもはまりました。人形は、形見の着物で作ってほしいと頼まれたりもして、すごくたくさん作ってきました。村での暮らしとは違って、狭い空間で避難生活を送っていると、ささいなことでもトラブルになるものですが、手仕事に集中する時間があつたおかげで切り替えができて、日常の暮らしをまた頑張ってきたのだと思います。家族も応援してくれたのが励みになりました。

村の文化祭で見ると手仕事の品々は、本当に素晴らしいものが多いです。避難後、それまでの仕事ができなくなって、その分の時間や力が手仕事に注がれて、みるみる向上していく村の女性たちの発想力や吸収力はすごいなあと感じてきました。何年かして振り返った時に、大変だったけれど悪いことばかりじゃなかったと、作品たちが語りかけてくれるかもしれませんね。

## 心に余裕を取り戻す 手仕事の時間

瀧本和子さん  
(前田・八和木)



パン粘土の花。花しべの表現にもこだわります

がってきました。避難生活の中、さまざまな場所や心の中、いろいろなところや、人々をつないできた手仕事のことを、避難指示解除という転換期を控えた現在の思いと合わせて、4人の方に聞きました。

家族や隣人と離ればなれに避難せざるを得なかった、あの混乱と苦悩の中で、懸命に「暮らし」をつむぎ、支え合おうとした女性たちの足跡も見えてきます。までいで美しい作品の数々は、その思いを映す鏡のようでもあります。

そしてそれは、6年に及ぼうとする避難の日々にも「暮らし」があつた確かな証。一つひとつが、までいな手仕事の物語です。

## 離ればなれでも共に歩んでいったかった



佐々木千栄子さん  
(佐須)

村で開いていた農家レストラン「氣まぐれ茶屋ちえこ」をかつて訪れたという神奈川県相模原市の方から、震災後、「何かお手伝いできることはありませんか」と連絡をいただきました。その時はお気持ちにお礼を言って、話を終えたのですが、その後、借り上げ住宅の皆さんが、孤立した状況の中で、病気になりそうなお年寄りを発見して、「できれば手仕事に使える古い着物などをお願いしたい」と、改めて申し出たのです。そして送っていただいた古着や布地を、皆さんに取りに来てもらいました。古着の中には打ち掛けやウェディングドレスでもありました。それぞれの仕事に精を出してきた村の女性たちに、持て余す時間を有効に使って、

力を取り戻してほしいという一心でした。集まって手仕事をする時間も大事にしました。ドイツ大使のご家族が、帰国に合わせて、私たちが作った小物をクリスマスのマーケットで販売してくださったこともあります。

支援をいただいた相模原市の皆さんには、5年が経ち、「自立を始めます」と、これまでの感謝を伝えました。これからは、村の中で、集まれる場所が必要になる。村内の家ができあがったら、村の人が集まってわいわいと1日を過ごせる場所を、また作ってみたいと思っているんです。

ミニチュアの着物は和のインテリア

届いた生地や古着を多くの人で分け合い手仕事の時間に生かしてきました

新しい年の  
事始めによせて

相馬大野台応急仮設住宅に入居する女性たちでつくる「羊の会」は、羊毛フェルトのルームシューズや、マフラー、エコたわしなどを製作するグループ。平成24年に、それらの製法を講習した笹久保孝子さん(神奈川県在住)が一般社団法人「あむえこねっと」を立ち上げ、材料の手配や製品の販売を支援くださっています。平成28年6月には、エコたわしを販売くださる西新井大(東京都)の縁日を、会のメンバーで訪問し、感謝を伝えることができました。また9月には、仙台市の三越デパートで、ルームシューズの販売会を開かせていただくなど、いろいろな経験も、皆で一緒にしてきました。

注文生産のルームシューズ

仮設住宅の集会所が羊の会の工房



週に1度、集会所に集まり、「これでどうかなあ」とにぎやかに相談しながらのものづくり。終わったらお茶を飲んで、仲良くやってきました。仮設住宅を離れた後は集まるのが難しくなるので、現在受注しているものを作り上げたところで、だんだんと活動は休止に向かう予定です。仕方のないことなのですが、ばらばらになるのが今はとてもさびしいですね。



「羊の会」の手渡由美子さん(前田・八和木/左奥)に話を聞きました。右手前が一般社団法人あむえこねっと代表で、編み物講師の笹久保さん

## 仲良くにぎやかに 集会所でのものづくり

新年の商いは、初売り・初荷で始まりです。また、農作業や山仕事には豊作や安全を祈願する新年の行事があります。書道の書き初めや、茶道の初釜など稽古始めもありますね。そんな事始めになぞらえて、村の女性たちの手仕事を紹介しようとして取材をしたところ、避難生活を乗り越えるための試みや支え合いとしての手仕事の存在が、エピソードの中に浮かび上

わたしたちの避難と「てしごと」のはなし

# 平成28年(第11回) 飯館村議会定例会



平成28年12月議会定例会は、12月9日から16日までの日程で開催されました。一般質問は13日に行われ、村議員が村政の重要な課題等について村側の考えを質しました。議会審議は16日に行われ、提出された議案は追加議案を含めて全て原案とおりに可決されました。

## 今議会で可決された議案等

(紙面の都合上、一部省略しています)

- 平成28年度一般会計補正予算
- 平成28年度国民健康保険特別会計補正予算
- 平成28年度農業集落排水事業特別会計補正予算
- 平成28年度介護保険特別会計補正予算
- 飯館村広域的減容化施設影響緩和基金条例
- 飯館村職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部を改正する条例
- 職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例
- 一般職の任期付職員の採用及び給与の特例に関する条例の一部を改正する条例

飯館村税条例の一部を改正する条例

飯館村使用料条例の一部を改正する条例

飯館村国民健康保険税条例の一部を改正する条例

センター地区調整池機能回復工事請負契約の変更について

## 村長村政報告

(紙面の都合上、一部省略しています)

### 村制施行60周年記念式「いいたて60祭」

9月25日、交流センター「ふれ愛館」で、約550人の村民参加のもと盛大に「いいたて60祭」を開催しました。参加者か

### 帰還困難区域について

11月6日、長泥地区の村民に対し、原子力災害対策本部から、今後の基本的な方針について説明がありました。村民からは、①他行政区と同様の除染や建物の解体②集会所周辺にミニ拠点を整備③地元との話し合いの継続などが意見・要望として出されました。今後、国・県・村、議会そして地元住民との協議の場を設け、引き続き長泥地区の復興・再生に向け取り組みます。

### 道の駅「までい館」

現在、役場本庁舎内に「道の駅までい館準備室」を設け、「(株)までいガーデンビレッジ」にて業務委託し、来年8月開業に向け準備を進めています。当施設は村の復興拠点となる重要な施設です。運営や設備について、ユニークでしかも他の道の駅と差別化できるように、取り組んでいきます。

### 岐阜県白川村からの招待事業

「日本で最も美しい村連合」が縁で、白川村から招待事業が実施されています。平成25年から28年までの4年間継続して行われており、この4年間で111名の村民が招待されました。必要経費の全額を白川村が負担し、村を挙げての至れり尽くせりの「おもてなし」に、参加した村民からは多くの感謝と感動の言葉が寄せられています。白川村からも、本村を訪れ、現状と復興状況を見てみたいとの意向もあるようです。来年度は村に招待し双方の親睦・交流を深めたいと考えています。

### 長期宿泊について

7月1日から実施している長期宿泊には、11月1日現在、159世帯360人が届け出をしています。常時村内に居住している世帯は50世帯程度であり、残りの世帯は、避難先と自宅を行ったり来たりの実状とされています。

### 飯館中学校に博報賞

飯館中学校が第47回博報賞「教育活性化部門賞」並びに文部科学大臣賞を受賞しました。震災後、飯館中学校が総合学習として行ってきた仮設住宅の訪問交流や田植え踊りの伝統文化継承など、地域住民をつなぐふるさと学習の5年間の取り組みが高く評価されたものです。継続して指導いただいた皆さまに改めて感謝申し上げます。



### 飯館村表彰式

長年にわたり、村振興発展に尽力された方の中から、今年度は、特別功労賞1名、功労賞2名、善行賞1名の皆様に表彰状を贈りました。これまでの村に対するご貢献に対し、改めて感謝を申し上げます。

### 防犯対策

村内の窃盗犯罪等に対応するため、新たに4基の防犯カメラと24基の防犯灯を設置しています。

### 敬老会

9月11日、6年ぶりに村内の飯館中学校体育館で敬老会を開催しました。362名の参加者には、地元での開催を大変喜んでいただきました。



### 農政関係

県の営農再開支援事業の推進母体となる農業復興組合が、10月までに16地区で設立されています。平成29年度には16地区全域での活動を予定しています。村では、主要野菜の出荷制限・摂取制限の解除に向け、村内27か所で実証栽培を行っています。収穫した作物は、県モニタリング検査を順次実施しており、現段階では、全てについて放射性セシウムは未検出となっています。伊丹沢地区では9月初旬から繁殖和牛の飼養実証を開始。松塚地区では平成29年度に水田での放牧実証を開始するために9月下旬に水田2ヘクタールに牧草を播種しています。獣害対策では、村鳥獣被害対策実施隊が11月末までに、イノシシ336頭、サル8頭を駆除しています。森林再生、里山再生の取り組みは、10月12日に国・県による現地調査があり、現在、平成29年度での事業実施に向けて詳細を調整しています。

## 門馬副村長が再任 4年の任期スタート

11月25日の村議会臨時会において、門馬伸市氏（八木沢・芦原）を副村長に選任する人事案件が提出され、議会の同意がされました。任期は、12月1日からの4年間です。

### 新たな村づくりを目指して

このたび、議会のご同意をいただき再度副村長の重責を担うこととなりました。

3期目となりますが、村政執行にあたっては常に初心を忘れることなく、また自己研鑽に努め、復興・再生はもとより村民の暮らしや福祉向上、そして限らない村政進展のため、誠心誠意努めさせていただき覚悟です。

さて、過去8年を振り返ってみますと、村民の皆様には長引く避難生活を強い、また将来に対する不安を与え、村の責任者の一人として大変申し訳なく思っております。一方、この間村民の皆様の避難への対応や除染、賠償、健康づくり、教育、復興計画等々、困難な課題に職員ともども懸命に取り組んでまいりました。十分とは言えないかもしれませんが、間違いなく前進してきたものと考えております。

また、原発事故による全村避難から現在に至るまで、全国の多くの皆様から物心両面にわたる心温まるご支援をいただき、どれほど元気と勇気を与えていただいたか計り知れません。この寄せられました尊いご恩に報いるためにも、一日も早く復興させなければ、との思いを日々強くしているところです。

今年の3月末には「帰還困難区域」を除き、避難指示が解除されます。解除されたからと言って、すぐに元の村に戻るわけではありません。むしろここからが復興のスタートになるものと思えます。また、今後人口減少に伴う超高齢化をはじめ地域のコミュニティのありかた、医療・介護、防犯、産業振興、学校等再開など、当面する課題も多く、前途は極めて厳しいものが想定されます。

厳しい時だからこそ、村民一人ひとりの力を結集し、創意工夫を凝らし、小さくとも光り輝く「新たな村づくり」を目指し、共にチャレンジしようではありませんか。

### 住民意向調査への協力をお願い

～ 復興へあなたの声を聞かせてください ～

村は国及び県と共同で、村民の皆さんの帰村などの意向を把握するため、今年度も住民意向調査を行います。

村民の皆さんからいただいた回答をもとに、今後村が進めていく復興に向けた取り組みを推進してまいります。調査票は、1月4日(水)に送付予定となっておりますので、ご協力をお願いします。

☎ 総務課企画係（本庁 ☎0244-42-1613）



副村長  
門馬伸市

#### 除染関係

10月末現在、除染同意をいただいた分の進捗率は、宅地100%、農地99%、森林99.7%、道路95%であり、これらについては、全て年度内完了の見込みです。

また、農地の地力回復工事は、国からは、一部の農地除染の遅れで来年度工事に繰り越しをするとの報告を受けています。

#### 片付け・ごみ回収

屋内ごみ及び農林系可燃物、廃家電、長尺物については、5月上旬から回収が開始され、年末まで実施する予定です。

また、これまで全世帯を対象に来年度のごみ回収の意向調査をしており、その結果、避難指示解除後も国によるごみ回収が継続してもらえよう要望しています。

蔵平仮設焼却炉では、破砕機などの前処理設備改修・試験運転を実施し、10月から計画通り焼却が進められています。

#### 「きこり」全面再開に向けて

施工業者と11月1日付けで本契約をし、来年4月から、きこりの営業が全面再開（食事提供を除く）できるよう、工事を進めています。

#### 昇口舗装の進捗状況

当初要望件数515件のうち今年度までに、314件が完了見込みとなっています。残り201件については、平成29年度に実施する計画でしたが、11月14日から25日にかけて、追加要望を受け付けた結果、約110件の申し込みがあり、平成29年度以降約311件を実施する予定です。

#### 村営住宅関係

大谷地団地災害公営住宅は、現在2期工事8戸の工事を実施。桶地内住宅、深谷復興拠点住宅については、現在設計を進めています。既存の住宅修繕は、全体計画51戸のうち、昨年度は8戸の整備を完了しています。現在は42戸の修繕工事を実施中で、今年度完了予定です。

#### 被災家屋解体の進捗状況

全体要望1,097件のうち、平成27年度まで95件が完了しています。今年度の家屋解体発注件数は545件で、現在の進捗状況は、完了341件、実施中61件で、進捗率63%となっています。

また、追加受付の要望が多かったため11月14日から11月25日にかけて新規の追加申請を受け付けし、追加申請の受付件数は約200件となりました。未着手457件を含めると、平成29年度以降の予定件数は、約657件となります。

#### 「ふるさと」4番歌詞

中学校の国語科の学習の一環として、ふるさとのイメージや村への思いを生徒一人ひとりが持ち寄り、唱歌「ふるさと」の4番の歌詞としてまとめました。歌詞は村制施行60周年記念事業の中で披露されました。当日は、飯館中生代表とお母さんコーラスの皆さんに協力いただき、会場全体が大きな感動に包まれました。

#### 第33回いたて村文化祭

10月29・30日には、第33回いたて村文化祭を交流センター「ふれ愛館」で開催しました。今年の文化祭は被災後、村内で初めての開催となりました。当日は、800点を超える作品展示と、村内の各種団体による舞台発表があり、900名を超える村民が来場しました。作品や舞台を観覧したり、村内での再会を喜び合ったりする姿が見られ、参加した方からは「村内でやるのはいいな」との声を沢山いただきました。

#### 第28回ふくしま駅伝

11月20日、第28回ふくしま駅伝が開催され、村は全区間に出場し、完走。今年も飯館中学校の協力により、16区間中7区間で中学生がタスキをつなぎました。結果は、昨年と同じ50位、昨年よりもタイムを約1分縮めました。タスキをつないでくれた選手の姿は、多くの村民に希望と元気を与えてくれました。関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

# 復興を歩む

vol.21

飯館中学校のふるさと学習

12月18日、飯館中学校で、ふるさと学習発表会が行われ、88人の全校生徒が縦割りの班で取り組んできたふるさと学習の成果を、「ドラマ」「ディベート」「ものづくり」の3つのテーマで発表しました。

ドラマ班は、仮設住宅の入居者や避難先で農業を続ける村民を取材し、帰村をめぐる3世代家族の葛藤と、未来への前進をシナリオに表現。家族が考えの違いを乗り越えていく日々をていねいに演じて観客をひきつけ、終演は熱い拍手に包まれました。「帰村や復興へのほくたちの思いは明確になった。パズルのピースのように小さな思いだけれど、ピースが集まりパズルができるように、思い描く飯館村はきつと現実のものになる」。10年後の村の姿を一人ひとりが語り、発表は幕を閉じました。

ものづくり班は、3つの制作物を完成させていました。村民歌の歌詞を刻んだ木製のレリーフ、村を紹介するパンフレット、郷土料理のレシピ集を披露。レシピ集から、蒸したジャガイモに甘味噌をからめた「みそいびり」を振る舞いました。

飯館中学校のふるさと学習は、平成24年、仮設住宅で清掃・炊き出しを行ない入居者と交流することから始まりました。平成25年から、1年生が田植え踊り、2年生が民話の紙芝居制作、3年生が味噌の仕込みと郷土料理に取り組むなど、避難の中でふるさとを学び、経験を深めてきました。こうした実践が高く評価され、平成28年、博報賞を受賞し、合わせて文部科学大臣賞を受賞したところです。

今年度はさらに「復興のために自分たちができること」をテーマに活動を展開。発表後、菅野佑斗さん（3年生）は「ふるさとに対する意識が変わったし、いろいろな見方、意見があることも分かった」と取り組みを振り返りました。生徒がふるさとと真剣に向き合う姿は、そのものが「希望」です。復興と新たな村づくりに挑戦を続ける村民を奮い立たせてくれる大きな力です。

「草野・飯桶・白石小学校の3校を統合すべきである」を論題としたディベート班の発表。肯定派と否定派が、統合で生じる学校体制の変化や、少人数学級のメリット・デメリットなどについて、専門家の研究やアンケート結果を引用しながら論じました。写真は、質疑のやりとりを真剣に見つめる生徒たちのようすです。また、発表会の第2部では、復興で最も大切なのは「お金」か「人」か「気持ち」かというテーマで、白熱のパネルディスカッションも行われました。自らの考えを語り、人の意見に耳を傾け議論する生徒たちに、「質の高い発表に驚いた」「これまで高め合ってきたようすが分かる」と来場者の賞賛が集まりました。



# 民生・児童委員が新たにスタートします



高橋恵美子  
(深谷)



佐藤美津子  
(草野)



**新**管野 清  
(草野)



大渡 正子  
(草野)

※カッコ内は担当区(敬称略)

民生・児童委員は、住民の見守りや支援を行うことで、地域福祉の推進を担います。また、行政機関の業務に対する協力も職務の一つとなっています。

平成28年12月1日に、厚生労働大臣の委嘱を受けた民生・児童委員の新たな任期が始まりました。任期は、平成31年11月30日までの3年間です。



菅野 正美  
(佐須)



佐藤 春雄  
(大倉)



田中 政秋  
(八木沢・芦原)



村松 礼子  
(小宮)



松原 光年  
(小宮)



長井 栄子  
(関沢)



**新**庄司 紀男  
(伊丹沢)



佐藤 正勝  
(上飯樋)



齋藤ちか子  
(大久保・外内)



渡邊 勝義  
(前田・八和木)



佐野 一  
(前田・八和木)



渡邊 茂興  
(飯樋町)



**新**今野 征美  
(飯樋町)



長谷川 佳代子  
(宮内)



三坂二三子  
(白石)



高橋 悦子  
(関根・松塚)



杉上 洋子  
(藤平)



**新**鳴原 良友  
(長泥)



菅野 とみ子  
(比叡)



菅野 鶴夫  
(比叡)



**新**松井なつ子  
(上飯樋)



佐藤かをる  
(主任児童委員)



長正サツキ  
(主任児童委員)



佐藤 路也  
(二枚橋・須萱)



佐藤 孝一  
(前田)

民生委員・児童委員は地域住民の福祉の相談役です。  
どうぞよろしくお願いいたします。

# 遊びの達人と遊ぼう!



▲和太鼓を使った音楽遊び♪



▲よく飛ぶ紙飛行機を伝授!



▲冬でもあたたかいすすくで、親子が楽しい時間を過ごしました



▲獅子舞も披露されました



▲太鼓遊びに夢中の子どもたち

12月16日、子育て支援センター1  
すすく(福島市)で親子遊びが  
開催されました。この日参加した  
親子は約30組。全国の子育て支援  
センターや保育所などで活躍して  
いる「ただじゅん」こと多田純  
也さんと、簡単にすぐできる親子  
遊びや、和太鼓や獅子舞等の昔か  
ら伝わる遊びを楽しみました。

## 心も、自分も大切に。～教えてくんちえ 堀先生～

村民の皆さんからの相談に、精神科医の堀有伸先生がお答えします。



精神科医  
堀 有伸 先生

相談：新しい年! 「良いこと」を引き寄せるコツはありますか?

堀先生：新年のお慶びを申し上げます。さて、トラウマになるような大きな苦難を経験すると、ものごとの見方が悲観的になってしまう人がいます。人間は、どうしてもないことにも理由を見つけようとするのです。そうすると、不条理なことがあった時に、「自分が悪かったから」「この社会が悪いから」という風に考えてしまいやすいのです。でも、そういう見方が固まってしまうと、本当に「悪いこと」を引き寄せてしまうかもしれません。どうぞ、一年のはじめに、自分や周囲の「良いこと」に目を向けて、素晴らしい一年を迎えられてください。

心の健康相談についてのお問い合わせは、健康福祉課健康係(いちばん館内) ☎0244(42)1638まで



▲多くの保護者が「お笑い」を学びました



▲お笑い芸人(左)の話術に笑みがこぼれました

**笑育とは**：「お笑い」を通して、子どもたちが楽しみながら表現力やコミュニケーション能力を身に付けることを目的とした取り組みです。

この日は、小学校が松竹芸能株式会社（大阪市）の協力を得て今年度から取り組んでいる「笑育」について、同社からの説明後に、お笑い芸人「じなんぼいず」による講演が行なわれました。講演では、関西弁の軽妙なトークを交えながら、日頃の生活で活かせる笑いのポイントや伝え方・話し方が保護者に楽しく伝えられました。佐藤匡飯樋小PTA会長は「笑いを通して学ぶことで、人と人をつなぐ力が身につくと感じた。学校だけでなく、家庭でも笑いを通して楽しい家庭を築いていきたい」と感想を述べました。

12月2日、草野・飯樋・白石小学校で「笑育」が開催され、保護者がお笑い芸人から「お笑い」を通じたコミュニケーションを学びました。

**笑いで育てる。**



▲キラキラ輝く笑顔を見せてくれました

11月25・26日の2日間、幼稚園ではつびよう会が行われ、来場者の前で、この日のために練習してきた音楽劇やダンスを発表しました。

今年「えがおいっぱいげんきばわーはつびようかい」をテーマに開催。ステージに立った子どもたちは、保護者を見つけると手を振ったり笑顔を見せたりして、楽しそうに発表をしていました。



▲園児の元気な歌声が響き渡りました

草野・飯樋幼稚園からのお便りです。



最優秀賞 西尾健太さん（白石小2年）

透明なサイがひとりぼっちだったけれど、ウツツキがツツンとやって背中に来てくれた感触が懐かしいなと思ったところがいいなと思って描きました。



▲小学校で行われた表彰式の様子

**本の世界を、絵で表現**



12月5日、教育委員会が小学生を対象に行った、第5回読書感想画コンクールの表彰が行われました。これは、読書で感じたことを絵画と文章で表現することで、本に親しみ、読書力・表現力・豊かな感性や想像力を育むことを目的にしています。

**最優秀賞**

西尾健太さん（白石小2年）

**優秀賞**

大矢陽翔さん（白石小4年）

佐藤陽季さん（飯樋小6年）

石井樹里さん（神奈川県相模原市横山小学校）

**佳作**

安齋義智さん（飯樋小1年）

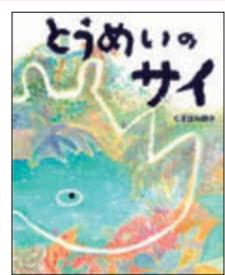
佐藤碧衣さん（福島市蓬萊東小学校）

菅野拓真さん（飯樋小3年）

庄司大夢さん（草野小4年）

志賀遥奈さん（飯樋小5年）

庄司梨花さん（草野小6年）



健太さんが読んだ本 どうめいのサイ 作：くすはら順子



▲「よいしょ」のかけ声にあわせて餅つき！



▲つきたてのやわか〜い餅をほおばりました

**ひと足先にお正月**

12月6日、幼稚園で恒例のもちつき会が行われ、保護者や深谷地区有志の方などの協力を得て、園児が白と杵で餅つきを体験しました。

園児の元気なかけ声に合わせて餅つきが始まると、部屋中が蒸した新米のもち米のいい香り、でいっばいになりました。

餅をつく子・応援する子、皆でがんばってついた餅は、汁餅ときなこ餅にして美味しくいただきました。



▲発光ダイオード(LED)の街路灯を設置



▲渡辺所長(右)から門馬副村長へ手渡されました

**東北電力、明かりを寄贈**

12月12日、東北電力福島営業所渡辺隆夫所長から村民の安全を光で守ろうと、街路灯25灯が寄贈されました。これは、同事業所が所員の意見を基に被災地支援事業「いいたて村おかえりなさいプロジェクト」の一環です。渡辺所長は「明かりを通して、復興を支えていきたい。村民の皆さんに寄り添った支援を今後も行っていきたい」と寄贈に込めた想いを話しています。



▲村が計画中の学校施設イメージ図

村が、村内飯館中学校エリアに計画中の各教育施設は、今回の報告書を基本として進められます。また、新たな教育ビジョンについては、学校運営協議会での協議内容をもとに、本村の特色ある教育の実現のため充実が図られる予定です。

今回提出された報告書には、幼保小中が連携し、一貫した教育を目指すこととした学校の運営方針の案や、村内既存校舎等の活用についてもまとめられています。



▲荒委員長から村長へ報告書が手渡されました

### 村内学校再開に向け

村内学校再開に向け、飯館中学校等改修を検討してきた飯館中学校改修推進委員会(荒利喜委員長)は、11月30日に村へ検討内容をまとめた報告書を提出しました。同会は、幼小中PTA会長や学校長などを委員として6月23日に設置されました。これまでに8年連続学力日本一の東成瀬村や小中一貫校の視察等を行い、さまざまな事例から学校施設の整備について協議を重ねてきました。



▲高橋雅行福島民報社社長から表彰を受ける菅野村長

**村還暦をPR!**

第55回福島民報広告大賞のモノクロの部にて、村が今年9月25日の朝刊に掲載した村制施行60年にあたっての広告「60歳還暦です」が銀賞を受賞しました。これは、県内企業、自治体などが、福島民報に掲載した広告の中から、毎年優秀な作品を表彰するもので、今回村の広告が選ばれました。12月5日に行われた表彰式で、村長に表彰状が贈られました。審査員からは「村の60年を人の還暦・喜びに置き換えた希望を与える広告で、これからの未来を感じる」と講評がありました。



▲9月25日付福島民報掲載：村広告記事



▲12月15日、高濱代表の講演の様子

村教育委員会は、保護者や教職員を対象に、2回に分けて教育講演会を開催しました。初回の11月24日は、「日本一学力が高い村」秋田県東成瀬村の鶴飼孝教育長による講演会「共に学び合う教育」が開かれました。これまでの東成瀬小学校での取り組みについて、具体的な子ども姿を交えながら熱く話していただきました。

2回目の講演は、12月15日に学習塾「花まる学習会」の高濱正伸代表を講師に「メシが食える大人を育てる！」を演題として開かれました。高濱代表は、引きこもりや働けない大人の問題を何とかしたいと考えたのが花まる学習会を設立したきっかけと説明。佐賀県武雄市で官民一体型学校に参画している経験を交えながら今求められる教育についてお話がありました。

中でも、思春期を迎えた子どもへの対応や夫婦の役割に関する話には参加者が深く納得する姿が見られました。



▲11月24日、鶴飼教育長の講演の様子

### 村の教育を考える

2回目の講演は、12月15日に学習塾「花まる学習会」の高濱正伸代表を講師に「メシが食える大人を育てる！」を演題として開かれました。高濱代表は、引きこもりや働けない大人の問題を何とかしたいと考えたのが花まる学習会を設立したきっかけと説明。佐賀県武雄市で官民一体型学校に参画している経験を交えながら今求められる教育についてお話がありました。

中でも、思春期を迎えた子どもへの対応や夫婦の役割に関する話には参加者が深く納得する姿が見られました。

期待の若手  
ホープズ



星 貴弘さん (飯館中PTA会長・上飯樋)

「子どもの笑顔のために」。震災後、小学校で開催しているPTA主催の夏祭りや学校行事に保護者の中心となり熱心に取り組み星さん。目指すは、震災前の村にあった学校と地域のつながり。「学校と保護者が協力して村教育を盛り上げたい。子どもには楽しい思い出をたくさん作ってあげたい」と話します。周囲の人に元気を与える【太陽】のような保護者が村の教育を支えています。



農家の知恵から生まれた保存食！  
「凍み餅 ～砂糖しょう油かけ～」

- 材料  
・凍み餅 … 食べたい量  
・しょう油 …… 適量  
・油 …………… 適量  
・砂糖 …………… 適量  
※味が濃くなりすぎないように注意！

- (作り方)  
①凍み餅は、水に浸し十分に戻す。  
②しょう油と砂糖を混ぜてタレを作る。  
③フライパンに油をひき、戻した凍み餅の水分を拭き取り焼く。  
④やわらかく焼き上がったら、タレをかけて出来上がり。

国道399号線が通る飯館村、浪江町津島、葛尾村、田村市都路、川内村のふるさとの味を集めたレシピ集が発行されました。懐かしい味を思い出してみませんか。レシピ集は村役場、交流センター、きこりなどで見ることができます。

参考：あぶロマレシピ集 あぶくまの郷土料理

こころの  
ほほえみ

隣の芝生は青くない…

正月ですので「インソップ物語」からひとつ。題は「肉をくわえた犬」というものです。1匹の犬が大きな肉をくわえて歩いている内に鏡のように美しい小川にさしかかったそうです。ふと下を見ると、そこにも1匹の犬がいて自分より大きな肉をくわえた犬がいました。「よし、おどかしてあいつの肉もとってやる」と思って大きな声で吠えたそうです。そして、ジャポン！とくわえていた肉が川の中に落ちてしまったという話です。

「インソップ物語」の中で「欲張り」を戒める有名な話です。他人のものが何かにつけて、よく見えるとついつい日本でも「隣の芝生は青い」などということわざがある位です。「もつと、もつと」といって追いつくめでも切りがないとついついでもあるでしょう。欲を出すと、まず「自分の境遇に感謝する心」をもつことが大切とついついにも、この話は使われているように。

今私たちは、避難生活の中で大変な思いを強いられているので「感謝」などということは全く考えられませんが、3月末には避難指示解除になるのですから、その後の暮らし方が問われることになってきます。6年目ゆえ、周囲の見る目も少しずつ変わっていく話も聞かされてきます。欲を上げていって「インソップ物語」の犬にならないように隣の「芝生の青さ」と比べずに自分の「芝生」を青くするよう、自ら努めていかねばならないのではないかなど、新年に当たり「インソップ物語」から考えさせられたことでした。

平成28年12月12日 飯館村長 菅野 典雄

入札結果をお知らせします

入札日/10月3日 (単位:円)

工事(業務)の番号・名称	契約額(税込)	請負業者	完成予定
選挙システム(村長選挙及び村議会議員補欠選挙)運用支援業務	1,080,000	(株)福島県中央計算センター	平成28年10月中旬
無線システム普及支援事業(携帯電話等エリア整備事業)飯館村移動通信用鉄塔施設N T Tドコモ用通信設備設計管理業務	2,548,800	(株)ミライト	平成29年3月下旬
無線システム普及支援事業(携帯電話等エリア整備事業)飯館村移動通信用鉄塔施設K D D I用通信設備設計管理業務	2,700,000	東北ボーリング(株)	平成29年3月下旬
地上デジタル放送再送信事業工事(第1期)	5,505,840	東日本電信電話(株)福島法人営業部	平成29年3月下旬
飯館村議会等備品購入	4,158,000	(株)大一事務機	平成28年11月中旬
消防団第一分団機動部屯所設計業務	2,127,600	(一財)ふくしま市町村支援機構	平成29年3月下旬
消防団第二分団機動部屯所設計業務	2,127,600	(一財)ふくしま市町村支援機構	平成29年3月下旬
道の駅「までい館」開業準備業務委託	11,999,880	(株)までいガーデンビレッジいいたて	平成29年3月下旬
深谷地区復興拠点エリア村営住宅・集会所地盤調査業務	3,024,000	庄建技術(株)	平成29年3月下旬
深谷地区復興村営住宅実施設計業務	21,600,000	(株)呂建築事務所	平成29年3月下旬
道の駅「までい館」屋外整備工事	84,240,000	庄司建設工業(株)	平成29年3月下旬
飯館クリアセンター浸出水処理施設修繕工事(調整ポンプ修繕工事)	1,944,000	(株)野田工業所	平成28年10月31日
営農再開支援事業農地保全管理業務	3,456,000	(一財)飯館村振興公社	平成29年3月中旬
里山再生モデル事業運営支援業務	2,332,800	L Eシステム(株)	平成29年3月下旬
危険木除去業務	1,080,000	飯館村森林組合	平成29年2月下旬
居久根伐採材運搬集積業務	29,484,000	飯館村森林組合	平成29年2月下旬
大火山ツツジの森管理業務	2,376,000	飯館村森林組合	平成28年12月上旬
大火山ツツジの森整備工事	2,970,000	(有)福相建設	平成29年3月下旬
宿泊体験館きこり修繕工事	120,960,000	(株)古俣工務店 川俣支店	平成29年3月下旬
宿泊体験館きこり修繕工事監理業務	3,834,000	(一財)ふくしま市町村支援機構	平成29年3月下旬
第16号 帰還再生生活道路整備工事(飯樋字久保曾地内)	13,068,000	(株)英工務店	平成29年3月下旬
第17号 帰還再生生活道路整備工事(蕨平字蕨平地内外)	12,960,000	(有)福相建設	平成29年3月下旬
第18号 帰還再生生活道路整備工事(伊丹沢字伊丹沢地内外)	23,112,000	(有)渡建工業	平成29年3月下旬
第31号 井戸掘削(ボーリング)工事(飲料水安全確保支援事業)(比曾字比曾地内)	3,996,000	庄建技術(株)	平成29年1月上旬
第32号 井戸掘削(ボーリング)工事(飲料水安全確保支援事業)(蕨平字蕨平地内)	3,996,000	庄建技術(株)	平成29年1月上旬
第33号 井戸掘削(ボーリング)工事(飲料水安全確保支援事業)(蕨平字蕨平地内)	3,996,000	庄建技術(株)	平成29年1月上旬
第34号 井戸掘削(ボーリング)工事(飲料水安全確保支援事業)(比曾字上比曾地内)	3,996,000	庄建技術(株)	平成29年1月上旬
第35号 井戸掘削(ボーリング)工事(飲料水安全確保支援事業)(比曾字下比曾地内)	3,996,000	庄建技術(株)	平成29年1月上旬
第36号 井戸掘削(ボーリング)工事(飲料水安全確保支援事業)(比曾字上比曾地内)	3,996,000	庄建技術(株)	平成29年1月上旬
第37号 井戸掘削(ボーリング)工事(飲料水安全確保支援事業)(比曾字下比曾地内)	3,996,000	庄建技術(株)	平成29年1月上旬
第38号 井戸掘削(ボーリング)工事(飲料水安全確保支援事業)(比曾字下比曾地内)	3,996,000	庄建技術(株)	平成29年1月上旬
公用車購入(教育課)	2,224,800	渡辺輪業自動車整備工場	平成28年11月下旬
学校等再開整備事業設計業務	248,400,000	国際航業(株)福島営業所	平成29年3月下旬
交流センター公用車購入	2,461,320	大澤自動車整備工場	平成28年11月下旬
スポーツ公園整備事業設計業務	189,000,000	国際航業(株)福島営業所	平成29年3月下旬

## 「放射能何でも相談会」が開かれています

宿泊体験館きこりで、「放射能何でも相談会」が開かれています。月に3回、放射線防護・農業・食品など、回ごとにさまざまな分野の専門家が来館。お茶飲み話をするような距離感で、村の皆さんの日頃の疑問に答えます。1月は、19日、20日、30日に、午後1時15分から開催される予定。予約は不要です。詳しくは全戸配布のチラシをご覧ください。お問い合わせは健康福祉課健康係(☎0244-42-1637)まで。



▲この日は農学博士の二瓶直登先生(左から2人目)による相談会。山菜・キノコのこと、炭焼きのことなどが次々と話題に

- ### 12月の村の動きと主なできごと
- 1日・民生児童委員委嘱状交付式(飯館村役場本庁)
  - 2日・渋谷公園通り商店街「までいライブ」石碑除幕式(東京都渋谷区)
  - 5日・読書感想画コンクール表彰式(草野・飯樋・白石小学校)
  - 7日・飯館中学校の博報賞・文部科学大臣賞受賞祝賀会(福島グリーンパレス)
  - 9日・仮設住宅・公的宿舎管理人会議(飯野支所)
  - 9日・第9回学校運営協議会(飯野支所)
  - 9日・16日・12月議会定例会(村役場本庁議場)
  - 13日・復興公営住宅「上町団地」鍵引渡し式(南相馬市原町区)
  - 14日・第1回までいな絆実行委員会(飯野支所)
  - 15日・「花まる学習会」代表・高濱正伸氏による教育講演会(飯館中学校)
  - 19日・ゲートキーパー養成講座(飯野支所)
  - 20日・読書メッセ「ジコンテスト表彰式(相馬農業高校飯館校)
  - 21日・第4回行政区長会(飯館村役場本庁)
  - 22日・飯館村までいな心の復興事業説明会  
(地域活性化センター「いちばん館」)
  - 第12回農業委員会定例会(村役場本庁議場)
  - 読書メッセ「ジコンテスト表彰式(飯館中学校)
  - 23日・「ふくしま大交流フェア」出展(東京国際フォーラム)
  - 24日・相馬農業高校飯館校演劇部  
第49回 東北地区高等学校演劇発表会出場(いわきアリオス)
  - 26日・定例教育委員会(村役場本庁)
  - 第2回自治組織連絡協議会(飯野支所)
  - 27日・29日・信州まつもと子どもキャンプ(長野県松本市)

## 復興へいっそうの連携と協力を 内堀県知事の来村

内堀雅雄福島県知事が来村して、交流センター「ふれ愛館」、飯館中学校本校などを視察。村役場では、菅野村長、門馬副村長、中井田教育長と懇談し、現状と今後の課題について意見を交わしました。懇談で、菅野村長は、これまでの県の支援に改めて感謝を表し、村民の住宅確保の重要性や、村の進める教育構想などを説明。内堀知事は、「確実な前進を感じた」と視察を振り返り、また、村の政策に理解を示して、連携を約束しました。

村役場本庁の会議室で懇談する  
内堀知事(右)と菅野村長▶



ひと月のできごとを  
振り返ってお知らせします

## 12/7 大倉で大型のイノシシを捕獲



▲「大きくて驚いた」と高野さん。この場所で捕獲したのは初めてだそうです

高野秀春さん(大倉)が自宅近くにしかけていた箱ワナに、大型のイノシシがかかりました。高野さんも所属する「飯館村有害鳥獣捕獲隊(阿部定宣隊長/宮内)」が、今年度、6月下旬から捕獲したイノシシの頭数は、これで339頭になりました。このような捕獲活動にも関わらず、有害鳥獣の被害は続いています。そのため村では、捕獲の他にも、試験栽培の農地で電気柵や監視カメラを活用するなどして、営農再開に向けた鳥獣被害対策に力を入れています。

## 安倍総理が「いいたていちごランド」を訪問

復興状況を視察するため来県した安倍晋三内閣総理大臣が、内堀雅雄福島県知事らと「いいたていちごランド」を訪れ、同社代表の佐藤博さん・洋子さん夫妻(二枚橋・須萱)、菅野幸藏さん(前田・八和木)から話を聞きました。佐藤さんらは、栽培施設や選果室に総理を案内し、品質の良いイチゴが生産できていること、依然として販路確保に課題があることなどを説明。「来年は施設全面での栽培を開始したい」と意欲も示しました。安倍総理は、菅野村長からも村の現状を聞き、「避難指示解除に向けて、国としても、しっかりとやっていく」と復興への前進を誓っていました。



村が開発に関わるイチゴのフレーバードティー(紅茶)について聞く  
安倍総理(右から4人目)。左隣が佐藤さん夫妻と菅野さん▲

1/15 特別ゲストは  
コロッケさん

いいたて村民  
ふれあい集会  
(福島市・パルせいざか)

1/8 新しい年の活動を  
スタート

飯館村消防団出初式  
(飯館中学校仮設体育館)

1/8 村の交流センターで開催!

平成29年飯館村成人式  
(交流センター「ふれ愛館」)



## 飯野町団地



モノづくりの楽しさを共有しました。「大人の部活」は今後も月1回のペースで開かれる予定です

飯野町団地の集会所で、第1回の「大人の部活」が開かれました。この活動は、NPO法人ビーズふくしま(若月ちよ理事長)の支援によるもので、同NPOが運営する「みんなの家@ふくしま」から「エコクラフト部」部長の二瓶恵美子さんが来場。5人の参加者が、クラフトテープを使ったクリスマスリースづくりを、和やかに楽しみました。



リースを飾るかわいい見習い部員さんも

12/12

## 旧飯野小応急仮設住宅



脳を活性化し免疫を向上させる手指の運動などを講習。楽しい雰囲気でも心もほかほかに



食事や入浴も共にして交流を深めました

## 旧明治小応急仮設住宅

飯野地区に避難する村民14人が、地域の皆さんと共に、「心身のリフレッシュを図ろう健康運動ツアー」に参加しました。この催しは、避難者と地域住民の融和を図る福島市の「笑顔つなぐまち交流事業」によるもの。福島市飯坂町のホテルをバスで訪れた一行は、健康講話や体操、温泉入浴や会食で1日を共に過ごし、心と体をいやすながら交流を深めました。

11/29

## 松川第一応急仮設住宅



青空の下、屋外で楽しむボウリングは爽快です

自治会サロンで、ボウリング大会を開催しました。小春日和の青空の下、集会所前の広場には、約40人が集まりました。ピンとボールは、11月から2か月間、村社会福祉協議会からレンタルしていたものです。週に1回、好きな人が集まって、練習会もしていました。レーンが1本。一投一投を、全員がにぎやかに応援する楽しい大会となりました。

12/16

「体を動かしたいね」という声に応えての開催です



「とくちゃんがんばれ〜」ギャラリイも大盛り上がり



12/8

## 相馬大野台応急仮設住宅



住民とひざを交え親身に話す安齋さん(右端)たち

専門家の立場から被災者支援を行う「福島プロジェクト」のメンバー6人が集会所を訪れ、自治会の皆さんと交流しました。交流のはじめには、グループが今年村内で行った線量測定の結果について、世界的なデータと比較して解説。さらには住民の心配事に耳を傾け、より線量を下げるコツや、影響を軽減する暮らし方などをアドバイスしました。



線量を確認しながら、遮への仕方もアドバイス。翌日、大島幸代さん(関沢/右端)宅で

今年の活動を振り返る報告書は何だかホットする語り口



福島プロジェクト  
放射線防護学者の安齋育郎さんをリーダーに、科学者とエンジニアが集い活動するボランティアグループの保育園などで被ばく軽減のアドバイスを継続する他、希望する住民の土地建物の線量を測定し、現状に即したより安全な暮らし方を提案しています。



【お詫びと訂正】12月号で「いいたて雪っ娘収穫祭」の主催を「かーちゃんの力・プロジェクトふくしま」と紹介しましたが、正しくは「いいたて雪っ娘かぼちゃプロジェクト協議会」でした。関係の皆様にお詫びして訂正いたします。

避難生活の中で感じていること、困っていること。除染や賠償、村の事業などについて聞いてみたいこと。ジャンルは問いません。皆さんの声をお聞かせください。



菅野 三吉さん(小宮)

家をリフォームしたんだ。工事で出たごみを早く片付けたい。家の中の線量も、しっかり測り直したいと思って役場に来ました。

村内の避難指示解除準備区域・居住制限区域で、住宅建替え・リフォーム等により発生した廃材（産業廃棄物）の処理については、リフォーム業者等が処理責任を負っています。産業廃棄物処理業者の紹介を希望される方は、リフォーム業者等から、直接、一般社団法人福島県産業廃棄物協会（☎024-524-1953）または、同協会相双方部地域協議会（☎0244-24-4811）へご連絡ください。また、不明な点については、福島県産業廃棄物課（☎024-521-7264）にお問い合わせください。

環境省による宅地周りや農地の除染（未同意の部分を除く）は、平成28年12月までに全ての箇所で行われました（地力回復工事は継続しています）。また、除染後の放射線量については、環境省がモニタリング調査を継続しています。家屋内などを含め、ご自分で計測してみたい方へは、村が線量計の貸し出しも行っています。貸し出しの申し込みの他、質問・相談などは、村復興対策課除染対策係（☎0244-42-1625）までお寄せください。



高野 吉正さん(前田・八和木)

避難指示が解除になったら、村に戻り営農再開したいと思っています。生計をたていくために、どういうものを作付けしたらよいものか、考えているところです。

復興対策課農政係は、来年度からの、米・野菜の作付けや牛の出荷の再開を目指す農家の方の意向をふまえて、村内での水稲実証作付け、主要野菜の出荷制限・摂取制限解除に向けた実証栽培、繁殖牛の飼養実証などを、精力的に行っています。

また、営農再開を希望する農業者の皆さん一人ひとりにヒアリングを行い、営農計画や営農再開に必要な施設・機械等を取りまとめ、国・県の事業を効果的に活用するための準備も進めており、先日高野さんにも来庁いただいたところです。

中断していた農業を再開するには、施設・機械等ハード面の準備や、除染後の農地の土づくりなどに加えて、各品目ごと生産者ごとの県によるモニタリング検査の受検や吸収抑制対策など、避難前にはなかった放射性物質対策も必要になります。農政係では、これまでの実証・試験で収集した知見やデータをもとに、再開予定品目やほ場に適した補助事業や対策について、国・県・JA等と連携して情報提供を行っています。自家用の米・野菜等の作付けを含めて、復興対策課農政係（☎0244-42-1621）まで、お問い合わせください。

いいたて 歳時記 その21

冬はソリが大活躍

冬に大活躍したのがソリでした。乗って遊ぶだけではなく、冬の学校の行き帰りや、重いものを運ぶ時にも使いました。今は、カラフルなプラスチック製のソリがたくさん売られています。昔は、自分で作ったソリに乗っていたそうです。材料となる木は、サクラ、ナラ、ホウノキなど。根曲りのスギや、木の股なども利用し、細部の工夫もしました。舵をつけたり、乗る場所に木の箱をつけたりする人もありました。遊びに使う簡単なソリなら、俵のボッチ（米俵の両側に当てる円形のフタ）や、肥料用の袋を利用したものもありました。

冬には、また、炭焼きの仕事がありました。営林署から木の払い下げを受けて、材料の木を伐採しました。その木を運ぶのもソリでした。炭焼き用の木を運ぶソリは、とても大きくて、馬が引く「馬ソリ」でした。地区によっては、田んぼに水を張り凍らせて、スケート場を作りました。スケート場では、ソリ遊びやスキー遊びもできました。スキーも、竹を割り、火であぶって先端を曲げ、手作りしていたそうですよ。



水を張り凍らせた田んぼで

参考：飯館村発行「飯館村史 第3巻 民俗」

誕生おめでとう

赤ちゃんの名前	親の氏名	行政区
細川 琉翔くん	智・りえ	上飯樋
佐藤 暉翔くん	脩平・結衣	前田・八和木

すくすくと元気に育ってね

〈お詫びと訂正〉  
広報いいたて12月号の「誕生おめでとう」の記事で「鹿山美希子さん」のお名前に誤りがありました。訂正してお詫び申し上げます。



ひとのうごき

ひとのうごき		11月1日～30日までの人口動態	
(平成28年11月30日現在)		***人口動態***	
人口	今月(前月比)	転入	2人
男	3027人(-12)	転出	5人
女	3101人(-4)	出生	2人
世帯数	6128人(-16)	死亡	15人
世帯数	1833戸(-4)	(住民基本台帳人口)	

結婚おめでとう

氏名	出身地
高橋 正弥	小宮
安齋 仁海	二本松市

いつまでもお幸せに

おくやみ

氏名	年齢	行政区
佐藤 昌一	82	飯樋町
佐藤 静江	82	関沢
菅野 昭三	88	関根・松塚
末永 リチ子	84	小宮
笠原 龍藏	75	深谷
菅野 スイ	86	比叡
高橋 安正	91	深谷

ご冥福をお祈り申し上げます

(11月21日から12月14日までに届け出のあったものを掲載)  
※この欄に掲載を希望しない方は、届け出のときに住民係へ申し出てください。

編集後記

2017年は酉(とり)年です。干支の「酉」は「ニワトリ」のこと。鳥というニワトリを思い浮かべる人も多いそうで、なじみ深い鳥といえます。さらに、日本人はニワトリの産卵を一人あたり年間300個以上消費しているそうで世界トップクラスです。やはり、ニワトリにはずいぶんお世話になっているわけですね▼2017年も、ニワトリのように勇ましく、飛ぶ鳥を落とす勢いで1年のスタートといきましょう。閑古鳥は追い払い、あわよくば一石二鳥でたくさんのご利益を...なんて▼ともあれ、皆さんにとって、2017年が健康で、笑顔あふれるよい年になりますように。本年もよろしくお願いたします。(木幡)



仲間とともに  
その45

習字の会

12月13日のお稽古に参加していたメンバーの皆さん。回地以外の避難先から通う人もいます

友人と一緒にこの会を立ち上げた山田恵さん(関根・松塚)は「筆字を書く機会があるたび、習っておけばよかったと思う」と、そのきっかけを話します。長正サツキさん(大久保・外内)に指導を依頼し、月に2回のお稽古で、書道に親しんでいます。「先生のご指摘で、字が変わります」。それぞれが書いてみたい題材を選んで取り組める自由な雰囲気も楽しそう。子どもの頃、長正さんの教室に通っていたという遠藤梢さん(大久保・外内)は、「久しぶりで楽しい。集中できるのがいいです」と、書に向きあう時間を楽しんでいました。

活動データ

- メンバーは6人。村営の復興公営住宅飯野町団地の集会所で、月に2回、火曜日に稽古をしています。
- 活動を始めたのは平成28年の4月。村でも教室を開いていた長正サツキさんが指導をしています。

「までこ」への共感 渋谷から

12/2



除幕の後、「までこライフ」の意味や、多くの村民が協働し地域おこしに取り組んでいたことを説明する菅野村長(左から2人目)。右端が今村復興大臣、左端が小松原理理事長。石碑は村特産のみかげ石で作られました。



いいたてホームや村の小学校に花を贈るなど、同復興組合の支援は平成24年から続きます。平成26年に寄贈いただいた忠犬ハチ公のオブジェは、いいたてホームで村民の帰村を待っています。

東京都渋谷区の渋谷公園通り商店街に「までこライフ」を顕彰する石碑が建てられました。同商店街復興組合(小松原一雄理事長)が、避難指示解除をひかえる村の新たな村づくりを応援しようと設置したもので、除幕式には、今村雅弘復興大臣も駆けつけました。菅野村長は、関係者に感謝を伝え、「復興した姿を見ていただければいい」と決意も表しました。

表紙 飯館中学校のふるさと学習発表会  
発表会の後、保護者らによる投げ餅や餅料理の振る舞いで故郷を味わいました。記事はP12で。



飯館村は「日本で最も美しい村」連合に加盟しています。